

第3章 川崎横穴墓群遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

川崎横穴墓群遺跡は東武東上線東上福岡駅の北北東約1,400 m、川越江川や藤間江川右岸の武蔵野台地縁部に位置する。遺跡の位置する台地縁部の標高は15～16 mで、西側の川越江川や藤間江川の流路面は標高7～8 mで急崖をなすが、台地全体は、本遺跡を境に北に向かって緩く傾斜していく。川崎横穴墓の周辺部は、川越江川と藤間江川により湾状に挟られている。

周辺の遺跡には、北側に隣接して川崎遺跡、台地の東縁にハケ遺跡が位置する。

川崎横穴墓群遺跡の調査は、1967(昭和42)年11月と翌年1月に、地造成に伴う道路築造に先だち実施された。緊急調査の結果、7世紀後半とみられる3基の横穴墓が確認された。

この時に検出された1号横穴墓は全長11.3 m、玄室最大幅1.75 m、奥行き2.25 m、高さ1.45 mで墓道、羨道部の残存状況は良好で、出土した被葬人骨は10体分であった。2号横穴墓は全長7.35 m、玄室最大幅1.85 m、奥行き2.25 m、高さ1 mで墓道、羨道部の一部も検出された。3号横穴墓は全長6.8 m、玄室幅1.4 m、奥行き1.8 m、高さ1 mで玄室と羨道部・墓道の一部を検出した。2・3号横穴墓からは人骨は出土しなかった。各横穴墓の床面標高は13 m前後で、床面には礫や砂が敷きつめられていたが、人骨以外の出土遺物は皆無である。

2014年12月現在3ヶ所で調査が行われている。

II 川崎横穴墓群遺跡第3地点

(1) 調査の概要

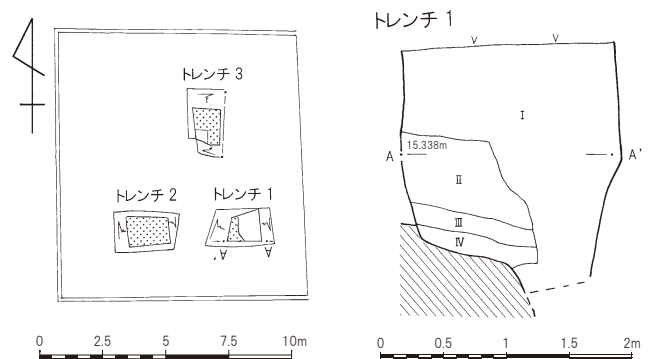
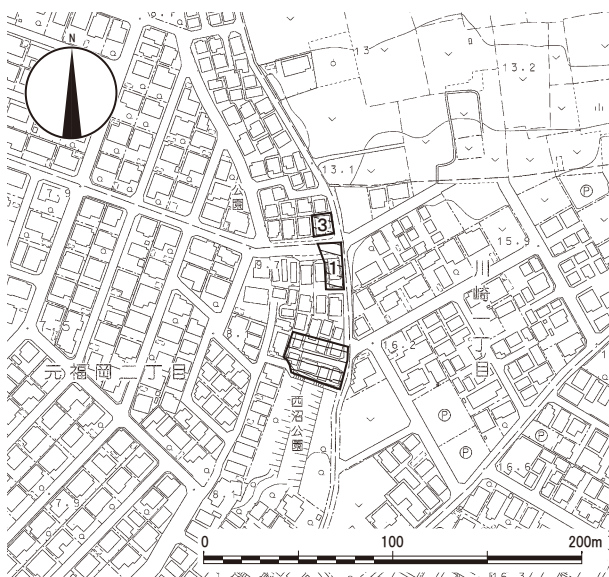
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年1月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地縁部の標高14～15 m付近に位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年3月16日に、1.5×2.5 mのトレンチ3ヶ所を設定した。重機で表土除去後、人力による調査を行った。

トレンチ1で、地表面から深さ約1.5 mで地山ローム面を確認したが、他のトレンチでは傾斜地のために、地山ロームが確認出来ない上、ガラ混じりの盛土で、遺構、遺物は確認されなかった。

狭小地と斜面地であるため、残土置き場の問題などから十分な調査が実施出来ない状況であった。ガラ混じりの盛土の下に、遺構がある可能性もあるため、掘削深度の深い再開発時には、工事立会い等の対応が必要である。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。重機の搬出は22日に行った。



- I. 暗褐色土 締り有、粘性有、盛土、プラスチック、鉄筋入りコンクリート、アスファルト50cm 前後含む、ガラ含む
- II. 暗褐色土 締り有、粘性有、2～5cm 大ロームブロック・1cm 以下ロームブロック多く含む、間に黒褐色土、黒褐色土主体に2～5cm 大ロームブロックを上層に含み、下層には1cm 大ロームブロック少し含む、基本的に黒褐色土ベースにロームブロックを含む層
- III. 黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に1cm 以下ローム粒少し含む、旧耕作土か、包含層
- IV. 褐色土 締り強、粘性有、地山ローム

第6図 川崎横穴墓群遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第3地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)



川崎横穴墓群第 3 地点調査風景



川崎横穴墓群第 3 地点トレンチ 1



川崎遺跡第 33 地点調査風景



川崎遺跡第 33 地点トレンチ 2



川崎遺跡第 33 地点トレンチ 3



川崎遺跡第 34 地点調査風景



川崎遺跡第 34 地点調査風景



川崎遺跡第 34 地点調査風景